

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
B-141	23-416	厚生会 道ノ尾病院 福嶋翔 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター 松下幸生
<b>題名 (原題/訳)</b>		
FMRI-based prediction of naltrexone response in alcohol use disorder : a replication study アルコール使用障害における FMRI に基づくナルトレキソン反応予測 : 再現研究		
<b>執筆者</b>		
Patrick Bach, Georg Weil, Enrico Pompili, Sabine Hoffmann, Derik Hermann, Sabine Vollstädt-Klein, Falk Kiefer, Karl Mann, Wolfgang H Sommer		
<b>掲載誌</b>		
Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci.2021 Aug;271(5):915-927.doi: 10.1007/s00406-021-01259-7. Epub 2021 Apr 21.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール使用障害、手がかり反応、脳機能画像、ナルトレキソン、精密医療、再発		33884495
<b>要 旨</b>		
<p>アルコール使用障害における薬理的治療は、効果の大きさが緩やかであることに苦しんでいる。薬物療法が有効な患者を選別するのに役立つ患者の特徴を同定する努力がなされてきた。先行研究では、ニューロンのアルコール手がかり反応が、ナルトレキソン (NTX) 治療が有効な患者を同定するマーカーとなる可能性が示された。我々は、腹側線条体 (VS) 活性化と NTX 治療反応との関連性の再現性を、治療希望のアルコール依存症患者 N=44 人を対象とした最近の縦断的臨床試験のデータを解析することにより検討した。</p> <p>追跡調査は 3 ヶ月にわたって行われた。VS における有意なボクセルの割合を計算し、Cox 回帰モデルを用いて再発リスクに対する NTX 治療との主効果および交互作用を検証した。VS における有意なボクセルの割合を計算し、Cox 回帰モデルを用いて再発リスクに対する NTX 治療との主効果および交互作用を検証した。</p> <p>VS における治療前の手がかり反応性と NTX 治療との間に、初回重度再発までの期間に対する有意な交互作用が認められた (ハザード比=7.406、95%CI 1.17-46.56、p=0.033)、VS の活性化が高い患者群 (平均スプリットで定義) では、治療必要数が 3.4 [95%CI 2.413.5] で有意な薬物治療効果 (ハザード比=0.140、95%CI 0.02-0.75、p=0.022) が認められたが、VS の活性化が低い群では有意な効果は認められなかった (ハザード比=0.726、p=0.454)。</p> <p>独立したサンプルを用いて、VS の活性化と NTX の有効性の間に以前に報告された正の関連を再現した。今回の結果は、サンプル数が少ないため慎重に検討する必要があるが、今回の結果は、アルコール依存症における精密医療アプローチのツールとしてのニューロンのアルコール手がかり反応の可能性を支持するものである。</p>		